

荻野富士夫名誉教授略歴

1953年 埼玉県生まれ

(学 歴)

1975年 早稲田大学 第一文学部 日本史学

1982年 早稲田大学 文学研究科 史学（日本史）

(学 位)

文学修士（早稲田大学）

文学博士（早稲田大学）

(経 歴)

1982年 4月～1985年 3月 早稲田大学文学部助手

1987年10月～1993年 9月 小樽商科大学商学部助教授

1993年10月～2016年 3月 小樽商科大学商学部教授

2001年 4月～2002年 3月 小樽商科大学商学部一般教育系学科主任

2015年 4月～2016年 3月 小樽商科大学商学部一般教育系学科主任

2016年 4月～2018年 3月 小樽商科大学商学部特任教授

2016年10月 小樽商科大学大学院商学研究科 兼任

2018年 4月～現在 小樽商科大学名誉教授

荻野富士夫名誉教授研究業績表

1975年

「啄木評論の書誌的検討——「暗い穴の中へ」と「所謂今度の事」」
『民衆史研究会会報』5, 5月

1977年

「大正社会主義の出発——雑誌『近代思想』にみる三つの出発——」
『早稲田大学大学院文学研究科紀要』23, 3月
「啄木の社会主義思想」
『啄木研究』(洋洋社)3, 10月

1978年

「山本銅山と『近代思想』——銅山の社会主義思想」
『日本文学』27-2, 2月
〈史料紹介〉『国民新聞』掲載「秩父暴動談」——明治末年の秩父事件観
『埼玉民衆史研究』4, 3月
「“冬の時代”前半の堺利彦——待機主義の論理と幾つかの蠢動」
『日本歴史』360, 5月
「月刊『平民新聞』の思想と運動——大杉と寒村の隔絶」
『民衆史研究』16, 5月
「『近代思想』期の荒畑寒村——その思想と文学の検討」
『日本史研究』192, 8月
「“冬の時代”下“民衆”の社会主義観——雑誌『近代思想』の受容過程を通して」
民衆史研究会編『民衆史の課題と方向』 三一書房, 10月
〈史料紹介〉「山本銅山の思想形成——松本中学時代を中心に」
『日本文学』27-12, 12月

1979年

「日本：近代六（一九七八年の歴史学界：回顧と展望）」(分担執筆)
『史学雑誌』88-5, 5月

1980年

「忘れられた青年 山本銅山」
『信濃毎日新聞』3月12日
「一九二〇年代前半の治安立法構想
——治安維持法成立の理解のために」
『政治経済史学』167・168, 4月・5月
〈解説〉幸徳秋水『社会主義神髓』・荒畑寒村『谷中村滅亡史』
『明治・大正の名著総解説』 自由国民社, 5月
(小田切秀雄・渡邊澄子『明治の名著一』〔自由国民社, 2009年9月〕再録)
「土岐哀果の青春」(上)
『啄木研究』6, 10月
「一九二〇年代前半の社会運動取締」
『日本史研究』220, 12月

1981年

「一九二八年の特高警察拡充」
『歴史評論』372, 4月

1982年

「土岐哀果の青春」(中)
『啄木研究』7, 1月

- 「“冬の時代”の社会主義取締」 『運動史研究』（運動史研究会）9，2月
 「社会主義運動の展開——堺利彦とボルシェビズム」
 鹿野政直・由井正臣編『近代日本の統合と抵抗』3，日本評論社，4月

1983年

- 「文部省思想統制体制の確立——学生運動取締と思想善導」 『歴史評論』394，2月
 「三・一五事件前の学生運動取締——文部省・思想統制前史」 『史観』108，3月
 「土岐哀果の青春」（下） 『啄木研究』8，5月

1984年

- 〈書評〉成田龍一『加藤時次郎』 『歴史評論』406，2月
 『特高警察体制史——社会運動抑圧取締の構造と実態』 せきた書房，9月
 （増補版，同，1988年11月）
 〈インタビュー〉「“冬の時代”の可能性」 『日本読書新聞』2278，10月15日
 〈書評〉後藤彰信『日本サンジカリズム運動史』 『日本読書新聞』2285，12月3日

1985年

- 「明治末年の啄木——「時代閉塞の現状」の発見」 『国文学解釈と鑑賞』50-2，2月
 〈解題〉堺利彦『売文集』復刻版 不二出版，3月
 「官憲抑圧下における河上肇」 『河上肇全集』「月報」16・17，岩波書店，4月・5月
 〈書評〉松橋忠光『わが罪はつねにわが前にあり』 『歴史評論』425，9月
 「「大礼」警備と特高警察」 『文化評論』295，10月
 「伝記文学・私の一冊 木々高太郎著『笛吹』」 『衍書月刊』1，10月
 「河上肇『貧乏物語』への軌跡——国家認識・民衆認識を基軸に」
 民衆史研究会編『民衆生活と信仰・思想』雄山閣，11月

1986年

- 「河上肇の社会主義観——『貧乏物語』以前」 『初期社会主義研究』1，10月

1987年

- 「反文明・反近代主義者としての赤羽巖穴」 『社会文学』1，6月
 「特高警察解体から警備公安警察創出へ——社会運動抑圧の連続」
 『法学セミナー』増刊総合特集シリーズ「警察の現在」36，7月
 〈解説〉『児孫の為に余の生涯を語る 山縣悌三郎自伝』 弘隆社，7月
 「高山樗陰小論」 『歴史評論』446，9月
 〈共編〉『定本銅山遺稿』 銀河書房，10月
 「山本銅山の生涯」

1988年

- 〈書評〉林尚男『評伝 堺利彦——その人と思想』 『初期社会主義研究』2，4月
 「明治期司法権力の社会運動抑圧取締」 『商学討究』39-1・2，8月・11月
 「正岡芸陽小論——ある反近代主義者の陥穽」 『人文研究』（小樽商大）76，8月
 〈書評〉大日方純夫『天皇制警察と民衆』 『歴史評論』463，11月
 〈紹介〉「内務省警保局内部資料」 『早稲田大学図書館紀要』29，12月

1989年

- 「松岡荒村小論——文明呪咀から「君が代」批判へ」 『人文研究』（小樽商大）78, 8月
 「学生の「天皇の責任」観
 ——小樽商大1988年度「歴史学」後期試験を通して」 『歴史地理教育』447, 10月

1990年

- 「初期社会主義における安部磯雄の思想」『安部磯雄の研究』
 早稲田大学社会科学研究所（安部磯雄関係部会），9月
 「“冬の時代”における安部磯雄の社会主義観」『安部磯雄の研究』 同前，9月
 「昭和大礼」と天皇制警察——『昭和大礼警備記録』を中心に」
 『昭和大礼記録資料 解説』（共著） 不二出版，9月
 「学生の「天皇の責任」観・再論
 ——小樽商大1989年度「歴史学」後期試験を通して」 『歴史評論』486, 10月
 〈書評〉山泉進編『社会主義事始』 『初期社会主義研究』4, 12月

1991年

- 〈編集〉『特高警察関係資料集成』全38巻 不二出版，1991～94年，2004年
 「日本：近現代六（一九九〇年の歴史学界：回顧と展望）」（分担執筆）
 『史学雑誌』100-5, 5月
 「プロレタリア文学の弾圧——検閲警察を中心に」 『社会文学』5, 7月
 「市井三郎の歴史観」
 鶴見俊輔・花田圭介編『市民の論理学者市井三郎』思想の科学社，10月
 「「天皇の責任」観から「象徴天皇制」論へ
 ——小樽商大1990年度「歴史学」後期試験を通して」 『北海道の平和と教育』12, 10月
 『北の特高警察』 新日本出版社，10月
 〈書評〉杉之原舜一『波瀾万丈』 『北海道新聞』11月24日

1992年

- 「戦時下の道内特高警察」 『北海道新聞』5月6日
 〈書評〉太田雅夫『初期社会主義の研究』 『日本歴史』8月

1993年

- 〈共編〉『「大逆事件」関係外務省往復文書』 不二出版，1月
 〈書評〉大和田茂『社会文学・一九二〇年前後』 『初期社会主義研究』6, 1月
 『昭和天皇と治安体制』 新日本出版社，7月
 「戦争と天皇の統治責任」 『学生新聞』10月23日
 『初期社会主義思想論』 不二出版，11月
 「平民社と堺利彦」 『彷徨月刊』11月
 〈書評〉住谷一彦『河上肇研究』 『赤旗』11月23日

1994年

- 「平民主義と民主主義」 『初期社会主義研究』7, 3月
 〈書評〉堀切利高『夢を食う——素描荒畑寒村』 『初期社会主義研究』7, 3月
 〈復刻解題〉『外事月報』 不二出版，6月

- 〈復刻解題〉『外事警察資料』 不二出版, 6月
 〈インタビュー〉「戦時下の国民動員, 弾圧体制を追及」 『赤旗』 8月23日
 「外務省警察論——特高警察としての機能」 『歴史学研究』 665, 11月
 「富山県における「労務慰安婦」について」 『戦争責任研究』 6, 12月
 〈復刻解題〉『社会運動の状況』 大正15年・昭和2年版 不二出版, 12月

1995年

- 『特高警察関係資料解説』 不二出版, 3月
 「紀元二千六百年から大政翼賛会へ」『戦争と庶民 ①大政翼賛から日米開戦へ』
 朝日新聞社, 3月
 〈講演〉「「思想犯」はいかに作られたか——「昭和」の弾圧体制」
 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟道北支部編『時をこえて』, 3月
 〈インタビュー〉「戦後50年を考える公開講座 日本の歩みを検証」
 『北海道新聞』 6月22日
 「「冬の時代」・時代閉塞・デモクラシー」 『初期社会主義研究』 8, 7月
 「治安維持法の「廃止」」 『婦人通信』(日本婦人団体連合会), 10月

1996年

- 〈編集〉『治安維持法関係資料集』全4巻 新日本出版社, 3月
 解説「治安維持法成立・「改正」史」4
 「『外務省警察史』復刻に寄せて」(同書復刻版内容見本) 不二出版, 6月
 「「満洲国」の治安維持法」 『歴史地理教育』, 8月
 「戦前・戦後の治安体制関係資料」 『図書館雑誌』 90-8, 8月
 「吉野作造と社会主義」『吉野作造選集』「月報」15 岩波書店, 10月
 「治安維持法から破防法へ」 『金曜日』 142, 10月11日

1997年

- 〈復刻解題〉『思想彙報』 不二出版, 4月
 「日本の初期社会主義における「民主主義」の問題
 ——デモクラシーとの思想的交錯」 『初期社会主義研究』 10, 9月

1999年

- 『戦後治安体制の確立』 岩波書店, 1月
 「木村亨さんから学んだこと」 『人権日本の夜明け求めて 熱き人 木村亨追悼』 8月
 「碧川企救男小論——初期社会主義と大正デモクラシーの交錯的存在として」
 『初期社会主義研究』 12, 12月

2000年

- 『思想検事』 岩波書店(岩波新書), 9月
 〈インタビュー〉「戦前・戦中の人権弾圧 背後の『思想検事』解明」
 『朝日新聞』 北海道版, 10月22日

2001年

- 〈講演〉「治安維持法と現代——戦前と連続する戦後・現在の治安体制」

- 『北海道経済』425号, 6月
 〈編集〉『小樽高商小樽商大90周年展』 小樽商科大学・市立小樽文学館, 10月
 〈講演〉「特高官僚と思想検事」 『治安維持法と現代』2, 10月
 〈インタビュー〉「思想検察と戦前戦後の治安体制」 『図書新聞』2559号, 11月24日
 (米田綱路編著『はじめはいつも本』パロル舎, 2006.4所収)
 『『外務省警察史』解題』 同復刻版別巻 不二出版, 12月

2002年

- 共編(小樽高商史研究会編)『小樽高商の人々』
 「戦時下の高商教育——第三代 苫米地英俊」 「緑丘の外国人教師」
 「草創期の学生たち——「緑丘スピリット」の醸成」 「大正デモクラシー下の学生たち
 ——軍教事件前後」 「戦時下と戦後の学生たち——繰上げ卒業・学徒出陣・民主化」
 小樽商科大学, 3月
 「日本：近現代十(二〇〇一年の歴史学界：回顧と展望)」 『史学雑誌』111-5, 5月
 「敗戦と治安体制」 『法律時報』74-6, 5月
 「『経済司法』の戦前と戦後」 復刻版『経済月報』解題 不二出版, 11月

2003年

- 〈編集〉『情報局関係極秘資料』全8巻 不二出版, 5月・9月
 〈推薦文〉「特高警察の確立過程と社会運動の興隆過程の理解に大きく寄与」
 マイクロフィルム版『一九二〇年代社会運動関係警察資料』 不二出版, 11月

2004年

- 『「大東亜治安体制」の構造と実態』 科研費研究成果報告書, 5月

2005年

- 『『小樽高商の人々』の編集から百年史編纂へ』(分担執筆) 『経済研究資料』35, 3月
 『外務省警察史——在留民保護取締と特高警察機能』 校倉書房, 11月
 『総力戦下の治安体制』 『岩波講座アジア・太平洋戦争』2 『戦争の政治学』
 岩波書店, 12月

2006年

- 〈推薦文〉「『満洲国』統治下の「情報」の役割を知る極秘資料」
 復刻版『宣撫月報』 不二出版, 1月
 『小林多喜二の生きた時代と現代』 白樺文学館多喜二ライブラリー『いま中国によみがえる小林多喜二の文学』東銀座出版社, 2月
 『思想・言論弾圧に猛威をふるう——治安維持法と共謀罪』 『婦人通信』575, 5月
 『再審「免訴」判決批判』 『無罪』(迎賓館・横田裁判の完全無罪をかちとる会)13, 8月
 『日記』 『国文学解釈と鑑賞』別冊『「文学」としての小林多喜二』 至文堂, 9月
 〈推薦文〉「現代の治安体制のありようを考える手がかりとして」
 編集復刻版『戦前期警察関係資料集』 不二出版, 10月
 『横浜事件と治安維持法』 樹花舎, 11月

2007年

- 「横浜事件」フレーム・アップの構図 『出版ニュース』2098, 2月
「小樽高商における年史編纂の試み——「緑丘学園三十五年史」を中心に」
『小樽商科大学史紀要』1, 3月
『戦前文部省の思想統制——「思想統制」から「教学錬成」へ』 校倉書房, 7月
〈インタビュー〉「冤罪問う「横浜事件」」 『北海道新聞』7月7日
〈講演〉「治安維持法と思想動員——歴史から現在を検証する」
『戦争と治安管理に反対するシンポジウムⅢ』, 9月
「戦前における爆発物取締の実相」
『未決拘留16年』刊行委員会編『未決拘留16年』編集工房朔, 11月
〈インタビュー〉「戦前の治安体制はどのように確立していったのか」
日本国民救援会『季刊救援情報』55, 11月
〈編集解説〉『文部省思想統制関係資料集成』全11巻 不二出版 12月～2008年7月, 12月
「戦時下の小樽高商生の「読書調査」」
小樽商科大学百年史編纂室ニュース『緑丘アーカイブス』6, 10月

2008年

- 〈講評〉『私たちはいかに「蟹工船」を読んだか』 遊行社, 2月
「小林多喜二から「託されたもの」」 『北海道新聞』, 3月19日・21日
「小樽高商軍教事件」 『小樽商科大学史紀要』2, 3月
「横浜事件再審免訴判決の確定に寄せて——特高警察に再注目を」
『出版ニュース』2138, 4月
「三・一五事件の連鎖」 『治安維持法と現代』15, 4月
〈講演〉「3・15事件の連鎖——小林多喜二に触れて」 『北海道経済』500, 4月
〈インタビュー〉「現代版「蟹工船」をなくそう」 『全国税北海道』1000, 6月
『「特審月報」解説』 復刻版『特審月報』 不二出版, 9月
「神奈川県特高警察の暴走——戦時下「共産主義運動」取締と「横浜事件」」
『季刊戦争責任研究』61, 9月
「北の外国語学校」 『図説 小樽・後志の歴史』郷土出版社, 11月

2009年

- 「小林多喜二——小林多喜二の文学観」 『国文学 解釈と教材の研究』54-1, 1月
「なぜ小林多喜二は虐殺されたか」 『世界』787, 2月
『多喜二の時代から見えてくるもの』 新日本出版社, 2月
「小林多喜二と治安体制」 『多喜二の視点から見た身体・地域・教育』
小樽商科大学出版会, 2月
〈講演〉「君の手を握る！ ——獄中書簡から——」
『杉並・中野・渋谷 多喜二祭』講演記録, 6月
「横浜事件」第四次再審「免訴」判決を聞いて 『出版ニュース』2174, 6月
〈編集解説〉『小林多喜二の手紙』 岩波書店（岩波文庫）, 11月
〈分担解説〉『「合作社事件」関係資料』「解説」（共著） 不二出版, 11月
〈インタビュー〉「歴史学の観点から多喜二の人間像に迫る」
全国大学高専教職員組合『全大教』245, 11月
「蟹工船」の、もっと奥へ 『北海道新聞』12月9日

2010年

- 「来るべき戦争遂行の準備」に抗するために
 『PRIME』（明治学院大学国際平和研究所）31, 3月
 〈書評〉井本三夫『蟹工船から見た日本近代史』 『しんぶん赤旗』 3月14日
 〈共編著〉『中国侵略の証言者たち』 岩波書店（岩波新書）、4月
 「満洲国」の治安体制
 〈推薦文〉「ジャーナリズムのトップ・ランナーとして」
 マイクロフィルム版『改造』内容見本 臨川書店、4月

2011年

- 『小樽商科大学百年史』編纂の現況 『緑丘』109, 2月
 〈共編〉『小林多喜二 草稿ノート・直筆草稿』 DVD-ROM版 雄松堂出版、2月
 『太平洋の架橋者 角田柳作 「日本学」のSENSEI』 芙蓉書房出版、4月
 〈講演〉「多喜二の時代から見えてくるもの」 『北海道経済』531, 5月
 〈編集執筆〉『小樽商科大学百年史』通史編 小樽商科大学、7月
 〈編集執筆〉『北に一星あり——写真集小樽高商・商大の百年』 小樽商科大学、7月
 〈校訂・解説〉『母の語る小林多喜二』 新日本出版社、7月
 「太陽は総てのものを平等に照らす」 『しんぶん赤旗』7月6日
 〈書評〉入江曜子『思想は裁けるか』 『秋田さきがけ』ほか、7月10日
 「特高警察100年」 『歴史地理教育』778, 8月
 「特高警察100年の罪責」 『しんぶん赤旗』10月25日
 「角田柳作」（「近代の肖像」） 『中外日報』11月29日、12月1日、12月6日

2012年

- 「小樽小林多喜二国際シンポジウムの開幕に向けて」 『しんぶん赤旗』1月18日
 〈紹介〉『太平洋の架橋者 角田柳作』 『緑丘』111, 2月
 〈インタビュー〉「戦前と通ずる「秘密保全法」の恐ろしさ」 『金曜日』20-9, 3月9日
 〈講演〉「弾圧の先兵・「特高」とは何か」 『北海道経済』541, 4月
 「『小樽商科大学百年史』を編集して」 『緑丘』創立百周年記念特別号、4月
 「2012小林多喜二国際シンポジウムを終わって」 『治安維持法と現代』23, 4月
 「『蟹工船』と北洋警備」 『序局』2, 5月
 「特高警察」 岩波書店（岩波新書）、5月
 〈インタビュー〉「今につながる民衆弾圧 『特高警察』を刊行」
 『しんぶん赤旗』7月1日
 〈インタビュー〉「今も継承される危うい体質」 『北海道新聞』7月15日
 〈講演〉「多喜二の戦争観・軍隊観と北洋漁業」
 『杉並・中野・渋谷 多喜二祭』講演記録、8月
 〈書評〉林田敏子・大日方純夫編著『警察 近代ヨーロッパの探求13』
 『三田学会雑誌』105-2, 9月
 「琴坂守尚さんのこと」 民主主義文学会小樽支部通信『防雪林』2, 11月
 「中国戦犯裁判で「満洲国」統治体制が裁かれた意義」（中国語）
 『教育改造戦犯研究』第一輯（中国・撫順）、12月
 （「戦意」の推移）に収録）

2013年

- 「東京裁判と特高警察——不処罰の理由を問う」 『世界』 839, 2月
 (『「戦意」の推移』に収録)
- 「小林多喜二と現代 なぜ虐殺されたのか」 『しんぶん赤旗』 2月19日
- 「私にとっての多喜二——「治安体制」と「思想史」の両面から」
 小樽多喜二祭実行委員会 『小林多喜二没後80年記念文集』, 2月
- 〈編集〉『多喜二の文学, 世界へ』 小樽商科大学出版会, 3月
 「多喜二の戦争観・軍隊観と北洋漁業——「蟹工船」から見えてくるもの」
- 「民衆の音楽を求めて——吉田隆子の抵抗」 『歴史書通信』(歴史書懇話会) 207, 5月
- 「Beyond early socialism: Kobayashi Takiji's sense of 'transition periods」
 Edited by Masako Gavin and Ben Middleton "Japan and the High Treason Incident"
 Routledge London, 7月
- 『大学「歴史教育」論』 校倉書房, 7月
- 「長野県二・四事件八〇周年の意味を問う——思想・教育統制としての「二・四事件」」
 『「二・四事件」八〇周年記念集会—記録—』, 10月
- 〈書評〉松岡將 『松岡二十世とその時代』 『しんぶん赤旗』 11月10日

2014年

- 〈インタビュー〉「私は思う 秘密保護法 次の選挙で責任問え」 『北海道新聞』 1月6日
- 〈インタビュー〉「新聞は権力監視の自覚を 特定秘密保護法に言いたい」
 『毎日新聞』 3月31日
- 「宝福先生の思い出」 『人文研究』(小樽商大) 127, 3月
- 「秘密保護法と軍機保護法・国防保安法」 岩波書店, 3月
 海渡雄一・清水勉・田島泰彦編 『秘密保護法 何が問題か——検証と批判』
- 『「戦意」の推移——国民の戦争支持・協力』 校倉書房, 5月
- 「国民の99%は戦争に協力し、支持した!——「戦意」の推移から見えてくるもの」
 『女も男も』(労働教育センター) 123, 5月
- 〈講演〉『「蟹工船」から見えてくるもの: 労働者と軍隊, 戦争』 『序局』 7, 9月
- 〈書評〉北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を告げる会編
 『引き裂かれた青春 戦争と国家秘密』 『しんぶん赤旗』 10月26日
- 〈編著〉『闇があるから光がある——新時代を拓く小林多喜二』 学習の友社, 11月
 「刊行にあたって」
 『「蟹工船」から見えてくるもの
 ——「帝国軍隊——財閥——国際関係——労働者」という一本の糸』
- 「日中戦争前夜」に似る今の社会」 『ゆうひろば』 150, 11月

2015年

- 「戦後七〇年」を迎えて——日中戦争前夜と現在」 『ほっかい新報』 1961, 1月
- 「治安維持法の時代を考える」
 『1・22結成集会報告集』(現代の治安維持法と闘う会), 3月
- 〈インタビュー〉「監視される危機 現代も 「獄中メモは問う 北海道綴方教育連盟事件」」
 『北海道新聞』 3月24日
- 「治安体制の重層性——「戦後70年」と「治安維持法施行90年」の節目に際して」
 『治安維持法と現代』 29, 4月

- 〈インタビュー〉「国民監視 歴史学ぶ資料」 『朝日新聞』山形版, 8月6日
 「中国東北部における治安維持法の運用 (上)」 『治安維持法と現代』30, 10月
 〈講演〉「太平洋の架橋者角田柳作 「日本学」の先生」
 渋川市中央公民館講演会記録 同公民館ホームページ 12月19日

2016年

- 「「生命線」・「国益」を叫ぶ時代 軍艦旗の下での漁業」 『序局』11, 1月
 〈インタビュー〉「学校と私」 『毎日新聞』2月8日
 『北洋漁業と海軍——「沈黙ノ威圧」と国益をめぐる』 校倉書房, 2月
 〈講演〉「戦時下の言論・思想弾圧——宮澤・レーン・スパイ冤罪事件の背景を考える」
 宮澤・レーン事件を考える会編, 2月
 「仮想多喜二宛田口タキ宛書簡」
 秋田県多喜二祭実行委員会『小林多喜二 生地からの発信』, 2月
 「中国東北部における治安維持法の運用 (下)」 『治安維持法と現代』31, 4月

2017年

- 〈インタビュー〉「宗教, 文学, 反戦の思いも弾圧 成立後は拡大解釈」
 『東京新聞』1月19日
 「国家権力のからくりを見抜け！」 『金曜日』1123, 2月10日
 「多喜二は戦争・軍隊をどのように描いたのか」 『民主文学』618, 3月
 「共謀罪と治安維持法」 『しんぶん赤旗』3月14日
 〈共著〉『「満洲国」の弾圧と抵抗——関東憲兵隊と「合作社事件」——』
 小樽商科大学出版会〔日本経済評論社〕, 3月
 「関東憲兵隊史——反満抗日運動の弾圧」
 「「合作社事件」から「満鉄調査部事件」へ」
 ——「在満日系共産主義運動」弾圧における「中核体」をめぐる」
 「映画「母——小林多喜二の母の物語」を見て」 『埼玉新聞』3月20日
 「私の三冊」 『図書』820, 4月
 「共謀罪法案を問う」 『北海道新聞』5月6日
 〈講演〉「「治安維持法」と「共謀罪」——「共謀罪」法案は現代の治安維持法」
 阿佐ヶ谷市民講座『国家機密法に反対する懇談会たより』101, 5月
 「「種まく人びと」を見る」 『しんぶん赤旗』6月5日
 「「胞子」となれ, 「腐葉土」となれ——「負けるな北星!の会」の歴史的位置」
 『北星学園大学バッシング 市民はかく闘った』, 7月
 「治安維持法と共謀罪」 『mi.ra.ie』(出版労連)22, 7月
 〈インタビュー〉「治安維持法と危険性共通」 『朝日新聞』7月13日
 (『もの言えぬ時代 戦争・アメリカ・共謀罪』(朝日新書)再録, 10月)
 〈インタビュー〉「治安維持法の歴史と共謀罪」『東京合同法律事務所ニュース』132, 7月
- ## 2018年
- 〈書評〉内田博文『治安維持法と共謀罪』 『東京新聞』ほか, 2月18日
 〈インタビュー〉「「共謀罪」と治安維持法, 運用の危険性共通」
 『朝日新聞』道内版3月3日
 「「三・一五共産党弾圧事件」九〇年」 『しんぶん赤旗』3月14日

- 「多喜二が憤激した「3・15事件」」 『金曜日』 1197, 3月16日
『日本憲兵史——思想憲兵と野戦憲兵』 小樽商科大学出版会〔日本経済評論社〕, 3月
「憲兵関係資料の残り方」 『評論』(日本経済評論社), 4月
『よみがえる戦時体制——治安体制の歴史と現在』 集英社(集英社新書), 6月
〈講演〉「世論を恐れて国民監視」 『東京民報』 8月12日・19日
〈講演〉「小林多喜二の生きた時代と現代——我等何を、如何になすべきか——」
『杉並・中野・渋谷 多喜二祭』 講演記録, 8月
〈書評〉赤澤史朗・北河賢三・黒川みどり・戸邊秀明編
『触発する歴史学 鹿野思想史と向きあう』 『日本思想史学』 50, 9月
「小樽商大・小樽における浜林「伝説」」 『治安維持法と現代』 38, 10月
〈講演〉「安倍政権下で「よみがえる戦時体制」
——多喜二の時代から考える・治安体制の歴史と現在」
『労働文化』(北海道労働文化協会) 272, 11月
「「暴力行為等処罰に関する法律」考——「騙し打ち的悪法」——」
『人文研究』(小樽商大) 136, 12月

[辞典の執筆は除いている]